

～まち全体をまなびやに 市民が生涯学び、活躍できるまちをつくる～

基本方針

人生 100 年時代を見据え、豊かな人生の実現と生きがいをもってくらせる社会の創造の双方の観点から、京都ならではの市民力・地域力・文化力を結集し、子どもから高齢者、障害のある人など、あらゆる人々の学びや文化・芸術、スポーツ等に親しむ機会を創出するとともに、それらを通して得た豊かな知識・技術・経験を生かすことができ、健康長寿にもつながる生涯学習のまちづくりに取り組む。

現状・課題

大学、博物館、文化財、伝統産業から先端産業などが集積する京都の都市特性を生かし、生涯学習施策を総合的・体系的に推進するまちづくりを進めてきた。

京都市の各図書館や、生涯学習総合センター（京都アスニー）などの生涯学習施設はもとより、地域コミュニティの中心である学校をはじめ、市内のあらゆる場での学びと交流が進んでいる。

一方で、市民が人生 100 年時代をより豊かに生きるために、ICT（情報通信技術）も活用しながら、文化・芸術、スポーツ等に親しむ機会を含め、さまざまな学習機会をより一層提供することにより、必要な知識・技能の習得、人と人とのつながり・地域コミュニティの活性化、健康の保持増進に資する生涯学習を推進していく必要がある。

単独世帯の増加が進むなかで、市民が孤立することなく生きがいをもって、健康で元気に活躍し続けられる社会をつくるため、生涯を通じて学び、地域に参画し、豊かな知識・技術・経験を生かせる環境を構築する必要がある。

さらに、家庭や地域の教育力低下が懸念されるなか、学校、行政機関、市民団体等の連携や支援体制の強化を図り、親の学びや育ちを応援する取組を充実させていく必要がある。

博物館・美術館でのギャラリートーク



情報モラル市民インストラクターによる「情報モラル講座」



生涯学習総合センターでの「ゴールデン・エイジ・アカデミー」



みんなめざす 2025 年の姿

1 市民がまちのあらゆる場で学んでいる

京都市の各図書館や生涯学習総合センターなどの生涯学習施設の機能の充実や、さまざまな生涯学習関係団体との連携の拡充により、急速に変化する社会経済情勢の下でも多様な学びが提供され、市民が自身に適した学びを自由に選択し、継続して参加できるまちとなっている。

2 人生 100 年時代に向けて学びと活動の循環が形成され市民がより豊かに生きている

人生 100 年時代に向けて、子どもから高齢者まで多様な世代の市民に活躍の場があり、元気に活躍し続けられるよう、学びとその成果を活動につなげられる循環が形成されたまちとなっている。

3 京都ならではの学びを通じて多世代が交流・共生するまちになっている

京都ならではの学びを通じて市民が相互につながり、子どもから高齢者まで世代を超えて交流しながら、地域やくらし、各々の生きがいをともにづくり、高め合うことができるまちとなっている。

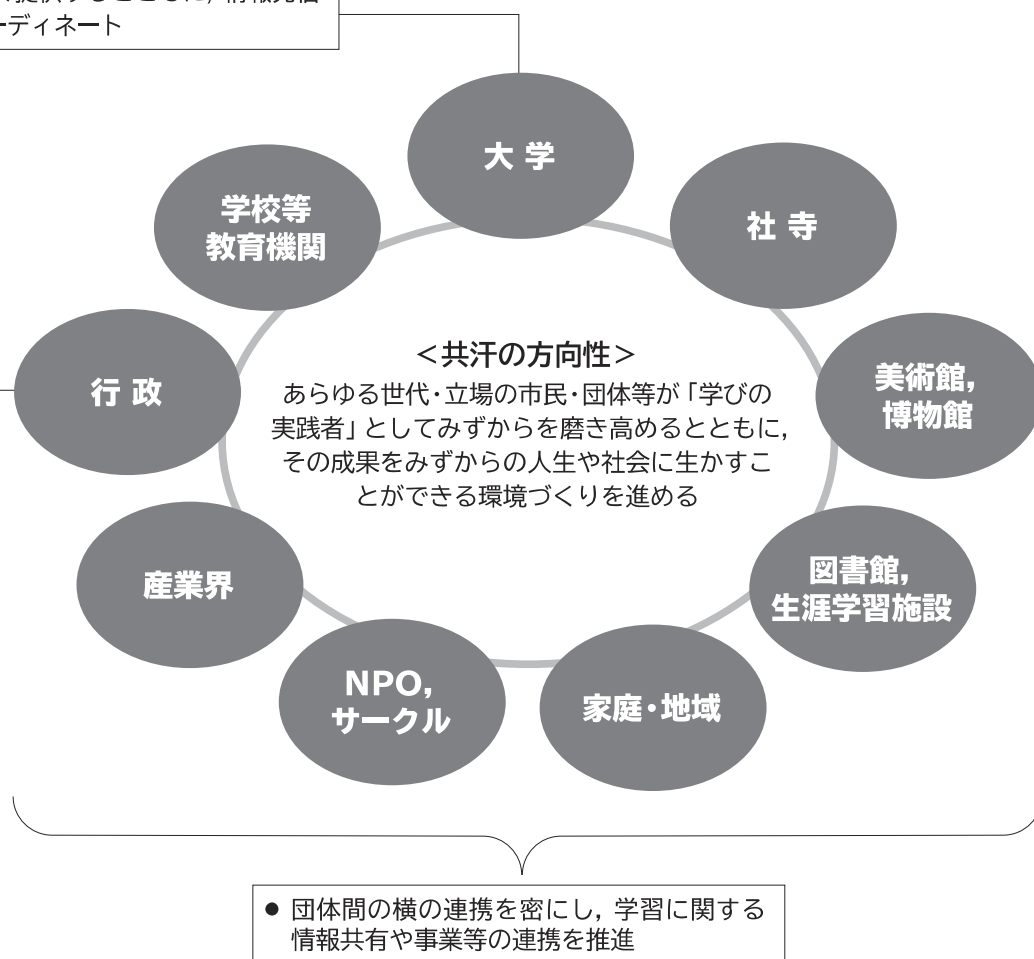
4 「子どもを共に育む京都市民憲章」の理念に基づく行動が市民に浸透している

すべての大人たちが「子どもを共に育む京都市民憲章」の理念を意識し、子どもを真ん中に据えた行動をすることで、社会の宝である子どもを市民ぐるみ・地域ぐるみで育むまちとなっている。

市民と行政の役割分担と共汗

- 専門的な学びの場を広く提供するとともに、情報発信など横のつながりをコーディネート

- あらゆる学びの場を集約し、わかりやすく情報発信
- 豊かな知識・技術・経験を生かせる環境の構築



推進施策

1 人生100年時代に向けてすべての人が学び続けることができる「学びのネットワーク」の拡充

(1) 誰もが学び続けることができるまちづくり

市民の学びと活動の循環の形成や真のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活、地域活動等の調和）の実現に向け、学ぶことの楽しさ、深さ、尊さを実感し、いつでも、どこでも、誰でも気軽に学ぶ機会を得られるよう、ICTの活用や、幅広い生涯学習関係団体との連携の拡充により、多様な学びを提供する。

(2) 京都ならではの多彩な文化資源を生かした学びの創出

博物館・美術館、NPO・ボランティア団体、大学、行政などが創出する豊富な学びの場に、京都が有する伝統文化や伝統産業等の多彩な資源を取り入れることにより、京都ならではの学びを創出し、市民の生涯学習のさらなる振興につなげる。

(3) 市民の学びと交流の拠点としての図書館機能の充実

市民の学びと交流の拠点として、地域に根差した各図書館の特色を生かした取組の推進や、市民生活に必要な資料・情報の収集・発信、すべての人が、いつでも気軽に利用できるような環境整備を進める。また、子どもの読書活動を推進するため、発達段階に応じた切れ目のない読書活動の支援を、学校図書館や関係機関とも連携し、児童館、学童保育所や子ども文庫、PTA サークル、書店等も含めた幅広い団体等とも情報を共有しながら実施するなど、さらなる充実に向けた取組を進める。

(4) 地域の人が集う学校施設や多彩な生涯学習施設の活用促進

学区・地域の人が集う学校施設や区役所・支所などを中心に展開されている地域に根差した学びを活性化させるため、催し情報の発信などの支援を行う。

また、生涯学習総合センターをはじめとしたさまざまな生涯学習施設が協働し、魅力ある取組を展開することで、市民の生涯学習の機会を一層促進するとともに、日本で初めて、京都で開催された国際博物館会議（ICOM）京都大会の成果も踏まえ、200以上の博物館で組織する京都市内博物館施設連絡協議会との連携の下、博物館ネットワークの充実を図ることで、市民の生涯を通じた文化芸術活動の振興につなげる。

2 学んだことを生かして社会のさまざまな場面で参画・活躍できる環境づくり

(1) 学びで進めるまちづくり

一人一人が学び続けることにより、みずからの地域や社会の課題を認識し、それらの課題の解決に主体的に取り組むまちづくりを進める。

とくに、高齢者の豊富な知恵と経験を最大限生かしながら、世代間が互いに学び合う機会を促進する。

(2) 学びで深める地域の絆

地域の各種団体と学校運営協議会、PTA やその OB、おやじの会等とが連携した「学校・学区等を核とした地域コミュニティ」づくりを推進し、地域活動をより一層活性化させる。

また、そうした地域コミュニティへの積極的な参画や市民の相互交流をさらに深めるためのきっかけにつながるよう、市民が参加して楽しいと感じられ、子どもから高齢者までが幅広く参加できるような各地域でのさまざまな学びへの支援を行う。

3 子どもを共に育む気運づくり

(1) 「子どもを共に育む京都市民憲章」の推進

学びを次代につなげるため、未来を切り拓く子どもたちの学びと育ちを支える。そのため、京都が培ってきた人づくりの伝統を受け継ぎ、ネットワークの輪をさらに広げながら、「子どもを共に育む京都市民憲章」が子どもを主体とした大人の行動規範として定着することをめざす。

とりわけ、虐待・薬物・児童ポルノをはじめ、子どもたちのいのちを脅かし青少年の健全育成を阻害する課題解決に向けては、各行政機関・市民団体の有機的な連携が何よりも重要であり、各団体間の協働関係をより一層強めていく。

(2) まち全体をまなびやに 大人みんなが先生に

放課後や休日、夏休み等における豊かな学びと育ちを市民ぐるみ・地域ぐるみで支えるさまざまな活動について、京都ならではの多彩な学習資源を最大限活用しながら拡大を図る。具体的には、地域や産業界、大学、博物館、社寺、NPO などが参画して、子どもたちに豊かな学びと育ちの場を創造する市民活動、子どもたちに運動の機会と環境を提供する各道場・スポーツ少年団の活動を振興する。

(3) すべての家庭にしっかり届ける家庭教育支援

親自身が親としての心構え等を学ぶための親支援プログラムについては、孤立しがちな子育て中の親が気軽に参加できるよう、保育所・幼稚園・学校さらには保健福祉センター・児童館等あらゆる場所で展開させ、すべての家庭に対して支援策を講じる。

また、中高生等、将来親となる若い世代が、体験活動などを通して、子どもを生み、慈しみ、育てることに感動を覚え、いのちの尊さを感じ、家族の社会的機能・役割とそれを支える地域や社会の重要性を考える機会となる学習を推進する。